

第3回養父市振興計画審議会（平成22年2月9日開催）
ワークショップテーマ「これからの養父市の望ましい将来像を描く(1)」

～皆さんからいただいたご意見のまとめ（案）～

〈審議会に対するご意見〉

- ・このような委員会のエネルギーと時間を無駄にしないよう必ず実現してほしい

〈将来像に関わるご意見のまとめ（案）〉

○「養父市に帰ってこよう」と思える経験ができるまちづくり

○女性の参加しやすいまちづく

- ・偏った考えで物事を決めず、多角的に見て判断（女性の参加しやすいまち。将来に対する不安、何かしようとするときの足止めをなくして。養父から一度出てもいい、「帰って来よう」という気持ちをもって出ていける経験）

○財政力を強くする体制づくり

- ・財政力が強いまち
- ・税金が安いまち

○地域に密着し、住民と職員がコミュニケーションを取りやすい体制づくり

- ・住民と市職員とがコミュニケーションをとりやすい体制づくり
- ・地域に密着した職員の配置

○周辺自治体と連携し、周辺自治体にはないものをつくれる体制づくり

- ・他市にあるものは利用して、他市にはないものをつくる

○子育て支援の組織を一本化した市役所の体制づくり

- ・子育て支援の組織を一本化（公民館・社会福祉協議会等）

○古民家・耕作放棄地・遊休施設等の活用

- ・古い人、古い家、農地の活用
- ・耕作放棄地の活用。Iターンなどの就農者を募る
- ・古民家の再生で活性化
- ・学校等遊休施設の活用

○地域資源の再発掘と活用

- ・地域資源の見つめ直し

○U・Iターンなど「住みたいな」と思える仕組みづくり

- ・地域が必要とする人材のU・Iターン者に空き家入居補助や情報提供を手厚くする
- ・都会の人が住みやすいまちに。U・Iターン
- ・「但馬なら養父市に住みたい」というまちになってほしい
- ・若者が、仕事ができるまちに
- ・Uターンした人が就職できる場所がほしい

○ボランティアの育成と、人材バンクなどの仕組みづくり

- ・ボランティアの育成
- ・人材ネットワークの構築
- ・人材バンクの組織化をして役立つ人を作る
- ・ボランティア力

○高齢者の知識や力を活かせる仕組みづくり

- ・交流の場に高齢者の知識・力を活かす
- ・高齢者が活躍するための技術・知識を学べる場

○大学や大学のクラブ・サークル等と連携できる仕組みづくり

- ・大学のクラブとのつながり(例：ハイキングクラブが養父市へ)

○地域の人が集まり、話し合える場づくり

- ・住んでいるまちの課題を見つけて話し合い、共有できる場
- ・地域で定期的に集まる場づくり（異世代交流を含む）

○お嫁さんや外国人など外から来た人が溶け込みやすい環境づくり

- ・外国人女性（お嫁さん）が溶け込みやすい環境づくり
- ・来てくれたお嫁さんに友達ができるようなサークル（三世同居が当たり前のまち。養父市に来てくれたお嫁さんを大事にする）

○地域資源を案内できるリーダーの養成

- ・地域資源を見せる（案内する）リーダーの養成

○既存施設や既存書籍などを利用した図書館の設置

- ・みんなで持ち寄った図書を利用した図書館の設置
- ・図書館が欲しい（蔵書がたくさん欲しい）。図書室ではダメ。
- ・図書館の設置（子ども、学生、生涯学習に活用。皆が望んでいる）
- ・廃校利用の図書館（皆が自由に集える場所づくり。大きな図書館のあるまち。子どもの遊び場（空き校舎を使ったマンガ図書館など）

○日本一の何かをつくりだすまちづくり

- ・特産品の開発（道の駅で販売）
- ・日本一の何かをつくる
- ・日本一（自慢できる）のまちづくり

○祭を楽しめるまちづくり

- ・祭りを楽しめるまち

○養父市の自然・伝統・環境をもとにした、観光客や交流人口が多くなるまちづくり

- ・観光客が多数訪れるまちに
- ・交流人口が多いまち
- ・都会の古い人の呼び込み
- ・都会へのPR（子どもが外遊びができるまち。都会の人に興味をもってもらうまち。自然と遊べる環境の発信）
- ・連泊してもらえる観光資源の提供の場づくり
- ・山村留学ができるまち
- ・自然、伝統、環境の良さを売りにした交流の場
- ・サイクリング道路の建設

○山林を資産にすることができるまちづくり

- ・山林が資産になるまち

○小水力発電など環境エネルギーを活用し地域負担が少なくできるまちづくり

- ・小水力発電の地域普及により地域の負担が少ないまち

○有害鳥獣の活用にもとづく対策ができるまちづくり

- ・自然遊びができるまちPR（シカ（有害鳥獣）を有効利用。遊び場の充実（自然のアピール））
- ・シカ（有害鳥獣）の見れるスポットをPR
- ・有害鳥獣（シカ・イノシシ）の保護や活用

○子育て環境としての豊かな自然環境の回復ができるまちづくり

- ・子どものすばらしい教育のまち（学校教育、習い事、スポーツなどを充実）
- ・プールではなく、川で魚取りや水遊びをする子どもへ
- ・清流を回復、川を利用した子育て、教育
- ・豊かな自然を取り戻す（子供らに川の開放）
- ・やりたいことができる雰囲気づくり

○子育て環境日本一を目指したまちづくり

- ・教育のまちとして養父市をアピール
- ・サケが回帰するように養父に帰りたくなる0歳～18歳の教育（学生、子ども達が参加できる村づきあい）
- ・地域の教育（高齢者からの若者、子どもへの指導、伝授。健康のまち養父）
- ・給食費等の無料化（思い切ることが大事。子供が生まれる。給食費の負担ゼロ。子ども手当はあげるのではなく、負担をなくす方向で。）
- ・子育て環境日本一のまち
- ・幼老育園の開設（子育て支援。制度を気にせず続けられる）
- ・教育（保育）費用が安いまち

○高齢者が生き生きと暮らせる「高齢者の郷」を目指したまちづくり

- ・高齢者が生き生きと暮らせる町に
- ・日本一の長寿の郷を目指す（助け合いのできるまち。高齢者の郷）
- ・医療の充実

○地域にふさわしい交通体系のあるまちづくり

- ・市内交通の充実したまち
- ・公共交通が利用しにくい方がいつでも外出できる

○間伐材など自然を利用し、高齢者が収入を得られる仕組みづくり

- ・間伐材を収集し、燃料を作り、高齢者が現金を得る仕組みと施設